

肝疾患

沈黙の臓器

肝臓は沈黙・無言の臓器といわれるように、通常必要とされる機能の3倍から4倍の能力（予備能）に加え再生能力も有しているため、機能が障害されていても重症化するまで病気になっていることに気づきにくいという特徴があります。また、肝臓は体中の総合工場にたとえられるように、さまざまな物質の代謝、貯蔵、排泄、解毒など生命の維持に重要な多くの働きを担っており、肝機能の維持・強化が大切となります。

肝疾患の原因

肝疾患には、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝ガンなどがあります。その原因については、ウイルス性肝炎を代表とする「生活習慣以外に起因するもの」と、脂肪肝やアルコール性肝炎など「主に生活習慣に起因するもの」に大別されます。

日本人の肝炎の約80%がA型、B型、C型など肝炎ウイルスによるものとされ、中でもB型、C型のウイルス性肝炎は、主に血液によって感染する疾患で、慢性肝炎に移行しやすく、肝硬変、肝ガンといった重篤な疾患につながる要因

となっています。他に肝機能の異常をきたすものとして、過食やアルコールの過剰摂取などによる脂肪肝やアルコール性肝炎、薬剤性肝炎などがあります。

肝臓の悪い人の食事

以前は、肝臓の悪い人の食事といえば「高タンパク、高カロリー」が基本とされてきましたが、現在の日本では、よほどの偏食をしない限り必要量のカロリーは摂取できている場合が多く、普通の食生活を「高タンパク、高ビタミン、適切なカロリー」に沿ったバランスの良い食事とするように心がけ、食物繊維をとり禁酒することなどが基本となります。

今日の漢方処方……………小柴胡湯《傷寒論・金匱要略》

体力中等度で上腹部が張り重苦しく、口が苦い、はきけ、食欲不振、全身の疲労感、悪寒と発熱が交互にある等を目標とします。柴胡剤の基本処方で、諸種の急性熱性病、肺炎、気管支炎、感冒、胸膜炎、リンパ腺炎、慢性胃腸障害、肝機能障害など幅広く応用されています。別名三禁湯（さんきんとう）と呼ばれ、「汗、吐、下、の三つを禁ずべき病態」を表しています。

小柴胡湯の構成生薬

柴 胡	コ 胡	大 棗	ソ 棗
半 夏	ハ 葛	人 参	シ 参
生 姜	ショウ 姜	甘 草	カン 草
黄 芩	ワ 芩		

柴 胡

柴胡は、シベリア・モンゴル・中国・朝鮮半島から日本西部地方まで広く分布するセリ科の植物で、日当たりの良い傾斜地に自生する多年生草本です。日本産では、かつて静岡県伊豆地方に野生していたものが三島に集荷され市場に出回ったことから“三島柴胡”“伊豆柴胡”と呼ばれ、それにちなんで基原植物の和名もミシマサイコと付けられています。今では、乱獲により静岡産のミシマサイコは絶滅し、九州



地方で採取される野生品が良質なものとして用いられるようになりました。輸入品では、主に中国産や韓国産のものが用いられています。

主要成分は、サイコサポニンで、他にサポゲニン、ステロール類、脂肪酸などの成分が確認されています。サイコサポニンには肝機能改善作用、抗潰瘍作用、抗炎症作用、脂質代謝改善作用、ステロイド作用等が報告されています。